

デンマークの高齢者福祉を学ぶ

～～～デンマークの高齢者福祉の3つの原則～～～

①残存機能を生かし、助成する。②自己決定の尊重。③継続性の重視。

◆◆在宅福祉◆◆

ミゼルフアート市、人口 18,700人 65歳以上 約 3,000人
ホームヘルパー 164人 (内144人がフルタイム) 地域看護婦 (18人)
作業療法士 (3人)

ホームヘルパー 9人～15人の単位で12の共同グループに分かれ、各受け持ち地域に核を持って仕事をしている。ヘルパーは、自分達で仕事の内容を決め、適切なサービスかどうかの解決や判断及び決定を代表が行っている。

地域看護婦 18人の内4人の責任者をおき、やはり3つのグループに分かれて、ヘルパーの指導及びサービスを受ける老人の在宅調査、決定を行っている。

活動 24時間体制で3交替

家族介護の支援 家族の一人が介護休暇をとって介護する場合には、介護者にヘルパーと同じ給料が市から支払われる。介護の後再び仕事に復帰することが保障される。

◆◆福祉施設◆◆

入所者と施設職員(管理者・事務者も含む)が同じ数。痴呆の居室でも扉はなく、カーテンで仕切っている。勿論個室。鍵をしないことが、徘徊を少なくしている。又、共用の台所や居間もある。施設では、地域への給食サービスも行っている。(有料)

◆◆福祉財源の税◆◆

市民の税金は、収入から家のローンや組合費等を控除した額の平均48～52%が一番多い。

講演の最後に、ゲオ・トマセン福祉部長は「自分が歳をとった時にしてもらいたいことを、お年寄りにしてあげること。相手のリズムを尊重していくことが最も大切なことではないでしょうか。」と重い言葉で結ばれた。

去る十月一日、名古屋で「デンマークの高齢者福祉を学ぶ市民の集い」が開かれました。デンマーク・ミゼルフアート市のゲオ・トマセン福祉部長のお話から、ミゼルフアート市の在宅福祉や施設福祉の実情を紹介いたします。

きめ細かなケアを
少し体の弱った方や、お一人暮らしの方が、安心して暮らしていくためには、普通の暮らしが出来ない方が出来る援助が必要で、その為には、いろいろな時間帯の援助をしていかなくてはなりません。当センターでは時間外のケア依頼に十分な対応が出来ないことが、少し生じてきています。どなたも日々の暮らしはそれぞれに忙しく、大切な時間をお過ごしのことと思いますが、助け合いの為に少し時間を費やさないででしょうか。

在宅介護の整備
病院から自宅に戻りたくても、在宅での介護態勢が整わないから退院出来ない方は多いと聞いています。実際に、私達もこのようなケア依頼を、病院のケースワーカーさんからいただきます。整備のないまま、やむなく退院されて来られる方も多く、結局、在宅での介護が十分受けられず暮らしていらっしゃるのが実状のようです。

みんなまで
高齢社会を安心して暮らすために、一人一人の力が必要な時代に入っています。私達もやがて高齢者になっていくのです。皆さんのご理解とご参加をお待ちしています。

ケア活動をより良いものにする為に
……多くのご参加を……
早朝・夕方・土曜・日曜・祭日に
お手伝い下さる方が足りません

9月活動状況

活動件数	9件
活動人数	22人
活動時間	109時間

9月会員登録状況

協力会員	44人
利用会員	22人
賛助会員	104人
計	170人

